

はじめに

この冊子は、胃瘻に携わる医師と看護師で話し合い、意見をまとめたものです。胃瘻を用いて栄養管理されている患者さんが、いつ、どこに居ても、誰に管理されることになっても、同じ方法で、同じ方針で管理されていくことを期待してみんなでこのマニュアルを作りました。それが、胃瘻で栄養管理されている患者さんが安心して、安定した状態で生活できる一つの方法と考えたからです。

このマニュアルが沢山の人の目に触れて、多くの胃瘻管理している方々に利用されることを願います。

最近では内視鏡手術の進歩と医療器材の質の向上により低侵襲で比較的短時間で安全に行える内視鏡的胃瘻造設術（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy 以下、PEG）という方法があり多くの医療機関で行なわれるようになってきました。胃瘻による確実な栄養剤投与が行なわれることにより、安定した状態での栄養管理が医療機関、施設、在宅で行なわれています。

しかし、胃瘻管理の方法がそれぞれの医療機関や施設によって異なるために、町の中では混乱が生じてきています。説明する医療従事者も教科書の記載事項をただ説明するだけであったり、経験的な知識だけを説明したりするために、説明する人によって内容が異なってしまいます。そのために在宅で胃瘻管理しているご家族は誰の言うことを信じ実施すれば良いのかが分からなくなり、のちに医療従事者への信頼も希薄になってしまうとします。問題は、造設する先生、退院時指導を行なう看護師、退院後に担当する医師と看護師の統一が図れていないことです。その原因は医療機関同士の綿密な連携がないことと、医療従事者や携わるスタッフの胃瘻に関する知識不足によるものと思います。

在宅での管理方法は実際介護を行なう

患者さんのご家族が行い易い方法でなければなりません。病院で行なわれている綿密に管理する手技や方法は必ずしも在宅に適した方法ではないことがあります。『在宅には在宅のやり方がある』と私たちは思っています。

そこで、平成16年10月より“在宅医ネットよこはま”から、胃瘻管理に携わる医師と看護師にご協力いただき手作りの胃瘻管理マニュアルを作成することになりました。病院で胃瘻を造設している医師、病棟で胃瘻管理をしている看護師、病院での退院時指導を行なっている看護師、在宅で胃瘻管理する医師（以下、在宅医）、訪問看護師が総勢60名集まり、在宅療養する患者さんやご家族の立場に立って、在宅で管理し易い方法を考え作成しました。このご家族に焦点を合わせたマニュアルに医療機関や施設で行なっている管理方法を調整していただけると幸に思います。

胃瘻管理方法と指導内容の現状

在宅には在宅のやり方がある

- ・ 寝たきり患者を受け入れるだけでも大変なストレス
- ・ 病院で行なっている完璧な医療は在宅には不向き
- ・ ストレスにならない範囲で家族の出来る方法を考える
- ・ 家族がやる気になるような在宅指導方法を考える



ストレスを最低限にして安心させる事が大切

造設した病院のやり方

造設する病院での指導内容(主に病棟看護師)は病棟で看護師が日常行っているやり方を指導する

医療が主導

在宅でのやり方

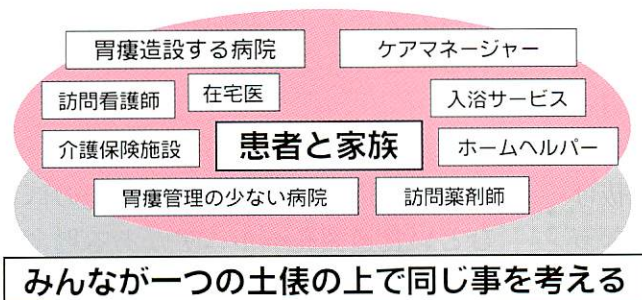
在宅の現場での指導内容(在宅医、訪問看護師)はできるだけ簡単に面倒にならない方法を指導する
家族の出来る範囲内での指導

介護者が主導

胃瘻管理の少ない病院や施設のやり方

病院や施設内で統一した管理方法がないことが多い
担当した看護師の経験をもとに指導されることが多い

理想的な在宅胃瘻管理



胃瘻対策チームの結成

平成16年2月の第3回在宅医ネットよこはま研究会で取り上げた『明日からできる胃瘻管理』の発表の時点から準備を開始

- ・ 目的と方法
共通した胃瘻管理マニュアルを作る
- ・ メンバーの選定
造設している病院医師、指導にあたる看護師、病棟看護師、在宅医、訪問看護師